

洋書輸入協会会報

NO. 5

昭和42年9月

渉外PR委員会報告

会報 No. 4 で当委員会報告として御報せしました国外並びに国内に対する P R
サーキュラーレターの発送を完了致しました。下記にその全文を掲載します。

JAPAN BOOK IMPORTERS ASSOCIATION

AIZAWA BLDG. RM 302
13-6, NISHINBASHI 2-CHOME,
CHUO-KU, TOKYO,
JAPAN

Tokyo, August 15, 1967

Gentlemen:

We take pleasure in informing you the opening of the new office of Japan Book Importers Association at the address given in this letterhead.

For many years, through courtesy of Messrs. Maruzen Company, Ltd., the office of the association was located in the same company. However, in view of the growing volume of work, it had been felt necessary to have an independent office so as to further strengthen the activities of the association. Under such special circumstance, as of August 1, 1967 the association moved to the new address with a staff exclusively working for the association under the direct supervision of the Board of Directors.

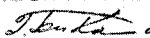
The objective of the association is to promote the mutual interests of the association members engaged in import and distribution of overseas publications. The association, at the same time, wishes to have closer relations with the overseas publishers and to exchange information for the mutual advantage of both members and publishers.

Taking this opportunity, we wish to ask you to add the name and address in your mailing list so as to let us have any new catalogs and other trade literatures when available. Information received will be filed completely for the convenience of references for the association members.

Thanking you for your cooperation.

Very truly yours,

JAPAN BOOK IMPORTERS ASSOCIATION



Chairman

国内むけPRレター

昭和42年9月

各位

洋書輸入協会
理事長 丸善株式会社社長
司 会

新事務所開設のご案内

諸君

益々ご清慮心から御礼申し上げます。

さて、私ども洋書輸入協会は、この度下記の通り組織編成をかためるとともに、独立した事務所を東京・大阪に開設して、専従者を置き、新しい活動態勢に入ることと相成りました。

ここに添ってご案内申し上げます。

今や資本自由化時代のわが国におきまして、科学技術関係を始め万般の洋書の重要性、必要性が急速に増大いたしまして、私ども洋書輸入業者の役割も益々重大となつてあります。

関係諸官庁、諸機関、需要者各位におかれましては、洋書輸入業に對して、この上りも一層のご理解、ご指導、ご援助を賜われませう様切にお願い申し上げます。

記

1. 新事務所

本 部 新 事 務 所 東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5
藍沢ビル302号（電話 271-6901）
関西支店新事務所 大阪市北区芝田町28
第 3 山ビル3階4号室（電話 371-5329）

2. 組織編成

イ、事務所専従者をおきました。

ロ、理事会の外に決り専門委員会を設け、既に活動を始められています。総務委員会、海外・PR委員会、会報委員会、雑誌欠号委員会、雑誌資料委員会、洋書交換委員会、雑誌研究委員会、文化厚生委員会

3. 当協会の足跡と今後

イ、昭和16年当時の情報局の管轄下に、同業者全員を以て“海外出版物輸入同業会”が結成され、戦時体制が強まると共に外国為替管理強化の過程の中で洋書輸入主、当協会の諸機関、会員への命令伝達機関、会員相互の連絡機関として、そして洋書輸入確保などにつくってきました。

ロ、戦後はいかに早く再発足して、関係当局と緊密に連絡をとりながら、ひたすら洋書輸入路の開拓（エロア基金、ガリオア基金の利用、英、仏、スイスのミクシヨンの協力を受けた）の為に活動いたしました。

ハ、そして、制限された外貨割当制の下における洋書輸入業の経営育成を目標として、長期間にわたり熱心に奔走を続けた結果、漸く洋書輸入外貨割当が自動承認制となつて結実した後は会員業者の協力体制の整備が、海外出版所の進軍の強化を主眼として活動を続けて参りました。

ニ、昭和33年に名称を現在の“洋書輸入協会”と改めました。

ホ、明治になつてから百年の長い期間に、わが国は外国文化をよく取り入れて、近代国家をつくり上げましたが、その間、外国文化の資料供給路として洋書輸入業者が働いてきたことは申すまでもありません。今後と新しい情勢にそいながら、時代によりよく即応した洋書輸入業者（当協会員）の職能を十分に発揮せしめて関係各位のご期待にそうべく努力するつもりであります。

拝 見

理事会報告 8月15日（火）

（株）ホンリュウ・コーポレーション居村方治社長を招き今回の経過を聴取し、理事会としての要望を申入れました。引続き会報並に経営研究委員会の報告が行われました。

雑誌資料委員会報告

前号にて報告しました来年度主要雑誌の価格問合せ（8月25日発信）に対する返事がほぼつと到着しつつあります。9月7日現在返事のあった出版社は下記の通りです。御必要の向は協会事務所へ御連絡下さい。

ACS/AIME/AMS/ASME/Blackwell/Commonwealth Agri. Bureau/McGraw-Hill/Masson/
Munksgaard/Nat'l Res. Council of Canada/Oliver Boyd/Penton/Schwabe/Springer, Wien/
United Nations/Vlg. Parey/VDI Vlg./Wm. Wilkins. （村山記）

会 員 紹 介

“ドイツ書専門に40年” 有限会社 福本書院

東京大学に近く、銀杏並木の本郷通りに店を持つ同社は、大正15年創業以来40年余の歴史と実績を誇る洋書専門店として、業界では老舗の一つ。創始者福本初太郎氏（現輸入協会名誉理事）は、丸善洋書部の出身。若い頃より深く哲学を愛し、又ドイツの学芸に着目し、特に哲学・文学・神学の分野では、数少い専門店として、豊富な在庫を取揃え、その普及を生涯の仕事として、情熱を傾けてきた。

オ二次大戦中、洋書の輸入の途絶した時期には、ドイツ政府より版權をとり、合法的リプリント版を発行した。戦後は輸入協会の設立に盡力し、永らく理事として業界の発展に務めてきた。昭和31年有限会社に組織変更、（長女）福本和子氏社長に就任し今日に至っている。福本初太郎氏は、本年喜寿を迎えたが、益々元気で、鎌倉の山荘で、好きな読書の傍ら、会社の新刊案内「福本書院月報」の編集に一役買っている。

昨年創業40周年を迎えた会社は、今後も、我が国に於けるドイツ文化の紹介に精進することであろう。

洋書こぼれ話

明治回顧 (一)

福本初太郎

会報の編集部より「明治時代の本」について何か書くようにとのことですが、実は日頃考えておりました「明治時代の外来思想とベストセラーズ」について書いてみようと思いましたが、原稿の締切日が切迫しておりますのと、未だ書名の書き足りないものがありますので、これは次回以後にゆずり、本号にはそのころのエピソードを二、三書いてみました。

Please Up Stair

私が丸善に入社したのは明治37年で、時恰も、日露戦争の勃発した直後の4月でした。当時の丸善は土蔵のような二階建の木造家屋で、一階は和書と文房具で、洋書の売場は二階にありました。来客は入口で履物を脱がされ、赤い鼻緒の草履に履き替えさせられました。二階へは幅1メートル程の薄暗いトンネルのような真鍮の手摺のついた階段を昇るのですが、その階段の昇り口に Please Up Stair の文字が紙に書いて斜めに張ってありました。

さて、この文字が問題なのです。毎日ひとりの雇員がこの真鍮の手摺^{みか}を研ぐのですが、この人は日ごろ社員から次のように申しつけられていました。「もし、外人から何か話しかけられたら『プリーズ アップ ステア』と言いなさい」と。勿論この人にはその英語の意味は判りませんが、唯この言葉を言えば難をのがれられると思いこんでいたのです。或る日外人がやって来て例の真鍮^{みか}研氏に何か話しかけました。氏はこの時とばかり「プリーズ アップ ステア」とやりました。ところが、その時は氏が手摺を下から全部研ぎ上げて二階に昇りきっていたのです。つまり二階の陳列場の隅でこの「プリーズ アップ ステア」をやった訳です。外人は怪訝な顔つきで上を見上げながら、あたりをキョロキョロ見廻しました。そこより上は屋根だけでしたから。

Murray's Guide-Book of Japan

初めて日本へ来た外人は日本旅行案内として Murray's Guide-Book をよく買い求めました。当時日本旅行案内としてはこれ以上のものは無く、先ず完璧なものでした。

或る時丸善洋書部に年若い外国婦人が来て、流暢な英語でマレーズガイドブックと店員に言いました。店員は直ちにイエスとばかりに Domestic Science の棚から1冊の本

を取り出して婦人に手渡しました。その本は当時よく売れていた「結婚の手引」とも言うべき Marriage Guide-Book で、その口画には妊婦が子供を産んでいる絵が付いていました。さあ大変。この若い婦人は顔をまっかにして本を投げ出し、逃げるように売場から姿を消してしまいました。その店員は呆気にとられてその婦人の後ろ姿を見送っていました。尤もこの店員は、たしか東北の生れで、「シ」と「ス」や、「ジ」と「ズ」の区別が一寸難かしかったのでしょう。

Toilet と Toilet

ついでにもう一つ失敗した話を書きましょう。これはもはや故人になられた丸善のA社長の若い頃のお話です。

或る日、これも外国婦人が洋書売場で本を見ていましたが、突然そこを通りかかったA氏の耳元で「トイレット？」と言った。A氏は私に「この婦人を隣りの化粧品部へ案内せよ」と言いました。当時の丸善の化粧品小売部は「菱屋」といって建物は別で、洋書部からはかなり離れていました。私はその婦人を案内して化粧品部へ行き、係の店員にその婦人を渡しました。ところが、その婦人の態度がいかに不思議でそのモジモジしている様子がなぜわかりませんでした。やがて婦人と係の店員との会話の結果、その婦人は大急ぎでそばの便所へ飛び込みました。

値段の符牒

丸善では明治42年の火災の時まで本の値段を符牒でつけていました。

例えば1円25銭はアンカナ、2円50銭はカンナ^{マル}〇、3円85銭はサンヤナ、と書きました。これは見ればお判りのように片仮名——アイウエオ——のア行からワ行まで、各行の最初の文字アカサ……を横に一、二、三……と数えたものです。

なぜこんな七面倒臭い符牒をつけたのか聞いたこともありませんが、おそらく同業者に値段を知られたくなかったもののようです。それでもまだ片仮名でよかったと思います。もしこれが平仮名の——いろは——でしたら大変でしょう。大正12年の震災頃まではよく神田の古本屋にこの符牒のついた本を見かけたものでした。

外国雑誌について

最高裁判所図書館 司書 伊藤 節夫

私の図書館生活の経験から、よき書店を選ぼうとする時は、雑誌の予約購入の取引きをやらして見ると、一番よくわかるようである。和洋の雑誌の如何を問わず、欠号もなく確実に届けて呉れ、万一欠号があっても直ぐに補充してくれる書店であれば、他の単行本も安心して発注できると断言してよいと思う。

実際書店にとって雑誌ほど煩わしく歩の合わない仕事はない。同じ雑誌を相当部数一括購入して呉れるところならともかく、図書館では大概1種1冊が普通であり、誌名、発行所は勿論、刊行回数の異った数多くの雑誌を確実に欠号なく納品することは、並大抵な労苦ではない。受け入れ側の図書館でも最近特に雑誌の管理についての関心が高められ、熱心な研究がすゝめられているが、やはり何といっても書店と図書館との間にもっとそれぞれの立場から協力し合う体制がととのわない限り、完全な雑誌管理が行われないうと思う。現在の段階としては、書店はこの利の合わない仕事をやることによって、より多くの単行本の注文を受けたい。つまり一種のPR費と考えている傾向が多いように見うけられる。雑誌の予約を受けておれば、何かと注文先に出掛ける機会も多からうし、そうすれば必然的に単行本のOrderを受けることになるからである。又利潤は少くとも、それが前金であれ後金であれ、コンスタントな収入になるからであろう。私は、図書館が雑誌の発注についての知識を知らなすぎるために、無理な注文の仕方をする点がないとは否定出来ないが、書店側としても雑誌の注文の受け方について、もっともっと工夫をこらしてもよいのでは

はないかと考える。

勿論、雑誌の掛値が非常に安すぎるため（ものによっては殆んど利潤のないものさえある）余剰量でこなさなければたちゆかないかも知れないが、雑誌の価値が増大している昨今、徒らに同業間のせり合いに終始することなく、もっと合理的な、経費のかからないPRの方法があるのではないか。

例えば毎年各書店から出される Subscription Catalogue などその一例である。各書店ともかなりぜいたくな用紙を使って、内容は殆んど同じようなものを出している。これなど共同編集して、共通のCatalogueとして刊行した方が、どんなに経費や人員の点でも経済的かも知れない。元来同一価値であるべきものが、まちまちであったり、使用する側から言えば単に誌名のアルファベット順のものの外に分類順のものを併せ記載してあれば、どんなに便利かとわかっていても、経費の関係で出来ないというようなことはなくなる筈である。そんな劃一的なCatalogueでは商売が出来ないと言われる向きがあるかも知れない。しかし図書館側から見れば、正確で使いやすいCatalogueを所望しており、雑誌の売上げの増減は、営業部員の誠意と熱意によるほかにないように思う。すべて雑誌に限らず、同じ書籍という文化財を扱うものとして、書店と図書館員の間により協力がもっとあってよいのではないか。それは決して相互の悪い意味の慣れ合いではなく、相手の立場を尊重し合ってでの協力である。お互の知識を殖ち合うことによって、よき産物の生れ出ずることを期待して止まない。

感想

— 洋 販 ・ 渡 辺 —

1年のうち、7・8月が私の唯一の勉強期間である。鹿島守之助氏は「私の経営法」という本のなかで、経営者は本を絶えず読まなければいけないといわれている。誠にその通りで、私などは汗顔の至りである。よくわかっているのだが、どうも会社へ出ると忙がしくて本をじっくり読んでいられない。私の仕事の大部は雑事であるが、之が案外手間どる。夜読めばいいではないかといわれるが、夜も結構ウロウロしているのである。私は日本の亭主族というも

のに一つの共通している点があると思っている。それは夜おそく帰るということである。官吏だろうが、銀行家だろうが、社長さん、重役さん、部長課長さま、メーカー、問屋、どこにつとめていようが、どんな役であろうが不思議に夜おそく帰ってくる。つまり妻の役目は夫をマツことであろう。大体夫という字はツマと読むのがほんとうであることは古文を習った人は知っている。そこで妻は夫の反対語であるから、妻はツマと読まずにマツと読むべきものな

りである。というわけで一年中バタバタしていて本を読むヒマがない。そこでマスコミと週刊誌だけが私の全知識というわびしい状態がつづくのである。そこで夏の山ごもり期間中が、勉強するときである。この時ばかりは本を売ることを忘れ本を買うことに専念する。

昨年までは日本国憲法という誠に大それた問題ととりくんでいたが、今年はやっと一段落し、目的なしで本を買って漁った。三笠書房と三芳屋書店に日参した。相当乱読したが、一番印象に残ったのが佐橋滋著「異色官僚」（ダイヤモンド社）である。佐橋さんについては多くの友人から大変なできぶつであると耳にタコができる程きいていた。例の「特振法」と「佐橋大臣三木次官」は新聞を大変にぎわしたものである。だけど、54、5才で自叙伝を書くなんてトンでもない野郎だと思って、むしろ反感をいだいていた。たまたま之という本がないので林健太郎氏の本とだき合せて買って来た。所が読んで見ると大変面白い。なる程この男はたいしたもののだわいとウナった。正直言って我々と同クラスの連中で通産省に入った連中よりは遺憾乍ら上だと感じた。日本の戦後のこの素晴らしい発展ぶりは各国の注目のまところであるが、最近のロンドンエコノミストはその原因に「日本の優秀なる官吏」をあげている。日本の官

吏という奴は誠にスローモーで、しゃくしちょうぎで、いばっていきけしからんが、優秀なことだけは事実である。紙の一貫作業、綿の統制徹底、さくら丸事件等に誠に彼の面目躍如たるものがある。仙台にハネとばされた時の火事の所は誠に感心した。（私は火事には弱い。旭屋の早嶋社長も火事の時からすっかりはれ込んでしまった。）佐橋は頭も大変なものだが、実行力も一本筋が通っている。男の価値は非常の時に発揮される。こういうやつ奴と一晩語りあかしたい。特振法などは私は今でも誤解している。官僚統制という感じをうける。だけどこの男からじっくり資本自由化後の日本経済について習いたい気持である。

男子の一生の仕事として日本の経済を如何に発展させるか。資本自由化に伴い外国の資本攻勢に日本経済を如何に対応させるかに情熱と一身を捧げられるのは誠にうらやましい。と、夢みている所に東京の会社から電話がかゝって来た。「8月の売上げは順調で、予定をやゝ上廻りました。あなたがいない方がウルサクなくて能率があがってゐます。なんなら9月中も休まれたら如何ですか」と。トタンに中小商業の身を自覚、首になる前にあわてて東京へ帰って来た。

* ヨーロッパ市場の開発に最高の企業便覧

KOMPASS REGISTER

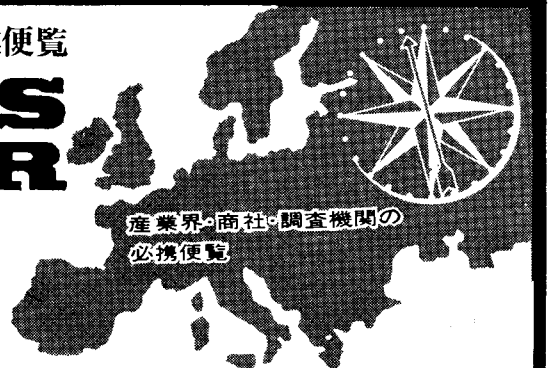
■ UNITED KINGDOM	(コンパス 英国企業便覧)	¥ 21,400
■ FRANCE	(コンパス フランス企業便覧)	¥ 14,200
■ ITALY	(コンパス イタリア企業便覧)	¥ 23,500
■ HOLLAND	(コンパス オランダ企業便覧)	¥ 7,100
■ SWITZERLAND	(コンパス スイス企業便覧)	¥ 11,300
■ SPAIN	(コンパス スペイン企業便覧)	¥ 11,340
■ BELGIUM / LUXEMBOURG	(コンパス ベルギー・ルクセンブルグ企業便覧)	¥ 7,100
■ AUSTRIA	(コンパス オーストリア企業便覧)	
	工業編・貿易編・人名編 各	¥ 7,100
	金融編	¥ 8,800
■ DANMARK	(コンパス デンマーク企業便覧)	¥ 7,100

★御一報下さればカタログを送付致します。
また、御用命の際は最寄の洋書取扱店へ。

日本販売総代理店

ユー・エス・エシアテック カンパニー

●東京都港区新橋1丁目13番12号(堤ビル) TEL 591-5181~6
●大阪市北区堂島船大工町14(日昭ビル) TEL 341-5291
●名古屋市東区種本町3-17 TEL 961-2621~5



高度の編集方法による最新のデータ
相互索引ができる独特の便覧—従業員50名以上の
企業もれなく記載

●特長

- 1) 国連の産業分類方式による各国別統一分類
- 2) 独特のグリッドシステムによる商品別・企業別項目の相互索引
- 3) 地域別企業分類方式

●内容

- 1) 各会社に関する的確な情報、所在地、業種、社長・役員名、配当金、従業員数、支店所在地、海外代理店等
- 2) 特殊産業の会社紹介
- 3) 詳細な業種別に基づいた市場調査
- 4) 地方市場の地理的解明
- 5) 広範囲にわたる産業界の動向を会社別、業種別、地方別に分析

会 員 紹 介

“軟派から硬派へ” 富士洋書株式会社

当社は、昭和35年2月にファッション専門誌のサブを主体として発足、昨春やっと協会に加入を認められたばかりの業界のニューフェイスである。発足後間もなく、デザイン図書を中心に美術書を手がけるようになったが、堅実な洋書の市場は学術研究部門においてはないと痛感し、39年頃より、土木・建築工学関係を軸に理工学書の取り扱いにのりだした。

その当時、経験といえば、軟派の、それも営業部門でのそれしか持ち合せなかったスタッフは、この新業務に取りくむために、理工学書の市場、情報収集手段、仕入等々の知識を、ABCから自力で学ばねばならなかった。

昨今やっと大学・研究機関等に固定客層を得るにいたったが、商戦シビアな東京の市場においては、まだ専門書に関する知識・経験ともども誠に浅いといわねばならず、しばしば暖簾のなさを痛感しているとのことである。協会の、さらにはわが国の学術の発展にいささかなりとも寄与することを念願に、こんごとも努力をかさね、現在の市場を基礎にして、漸次理工学全般に業務をひろげてゆくという方針である。

NEWS 欄

■ Frau Johanna Schlüter 8月中旬来日、同女史は東独 VEB Gustav Fischer Verlag, Jenaより派遣されたもの。

■ 米 John Wiley 社の永年の Representative であった Mr. Bruce Rogers が退職された。

■ 米 Feffer 社東洋代表アーサー・M・金子氏退職、帰米された。

■ 8月下旬に行われた The 7th International Congress of Biochemistry において、その会場の一つである東京プリンスホテルで米 Academic 社と蘭 Elsevier 社の展示会が行われた。

尚そのとき、Academic 社より Dr. Barsky 氏が来日された。

■ 「ドイツ書店報」の報道によれば、今秋のフランクフルト図書展に東独は参加しないことになった。その端緒となったのは下記11社の出品拒絶だとのこと：VEB Bibliogr. Inst., VEB Breitkopf & H., VEB F. A. Brockhaus, VEB F. Hofmeister, VEB Niemeyer, VEB Ed. Peters, Reclam, VEB Seemann, VEB Teubner, VEB Thieme, Dietz Vlg.

■ パーガモンプレス社日本代表ドブソン氏は6月末辞

職、尚アシスタントの立協嬢は当分の間同社代表として活動中。(連絡先は港区赤坂1-11-39 芥二興和ビル館305号 電話 584-5740)

■ 8月16日(水)

VEB Gustav Fischer Verlag, Jena の Frau. J. Schlüter 来阪。協会員有志と新大阪ホテルにてAM9.30~11.00まで、東独の出版状況、業界の説明、取引の問題等について懇談す。出席会員、北尾書籍貿易(株)、(株)旭屋書店、(株)海外書籍貿易商会、丸田洋書貿易(株)、北尾書店新社(株)、(株)独亜書院、以上6社。

■ EVERYMAN'S ENCYCLOPAEDIA 第5版特価期間延長、第5版の特価(小売¥33,600)での販売期間は本年8月末日迄の予定であつたが、当分の間特価期間を延長することになった。尚、正確な特価延長期間は決定次第改めて連絡があるはず。

■ DONALD MOORE (JAPAN) LTD. ドナルド・ムーア(ジャパン)社は昭和42年10月1日より下記の社名に変わる。

United Publishers Services Ltd

ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社

東京都千代田区麹町4-1 志村ビル

TEL・(262) 5278 (代表)

昭和42年9月 第5号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重
東京都中央区日本橋江戸橋1-15-5 藍沢ビル302号室 電話 271-6901
関西支部 大阪市北区芝田町28 芥一山中ビル 電話 371-5329